

1. 授業の概要(ねらい)

TAFP(帝京アジア交流プログラム)留学生を主な対象とした科目です。授業はすべて英語で行われます。この授業では、主に15世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりと影響に主眼を置いて、経済史をよりグローバルな視点から学びます。

経済の三要素といわれるヒト・モノ・カネに加えて、そのほかさまざまな要因(制度・情報・技術・宗教・教育・地理・環境など)も考慮に入れながら、今日のグローバルな世界の成り立ちについて学びます。

2. 授業の到達目標

- ① 経済史とはなにかを説明できる。
- ② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
- ③ 歴史を知ることで、現在われわれが生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(30%):① 発表、② 小課題およびコメント・カード、③ 出席状況

期末試験(70%):授業内容を主な範囲として、60分間の筆記試験を実施します。

※ 特別な事情がなく、4回以上無断で欠席した場合には、自動的に評価の対象外とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

Robert C. Allen, Global Economic History: A Very Short Introduction (Oxford UP, 2011)

参考文献

Robert Whaples & Randall E.Parker (eds.), Routledge Handbook of Modern Economic History (Routledge, 2013)

Kenneth Pomeranz & Steven Topik, The World That Trade Created (Routledge, 2017) 4th edition

Niall Ferguson, Civilization (Penguin, 2011)

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習資料を事前に必ず読んでくること。

現在、「グローバル」な視点から書かれた歴史学の本が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連の書棚を眺めてみてください。ネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

6. その他履修上の注意事項

授業の内容や順番は変更になる場合があります。

日本語の補足や解説はありません。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 歴史学とはなにか、経済史とはなにか?
- 【第3回】 前近代のヨーロッパ 【オンライン(LMSによるオンデマンド形式)】
- 【第4回】 西欧の海外拡張
- 【第5回】 17世紀オランダ
- 【第6回】 大いなる分岐
- 【第7回】 産業革命
- 【第8回】 ドイツとアメリカ
- 【第9回】 インドの挫折
- 【第10回】 南北アメリカの比較
- 【第11回】 アフリカ
- 【第12回】 日本のキャッチアップ
- 【第13回】 ソ連と東アジア
- 【第14回】 ドキュメンタリーの鑑賞
- 【第15回】 まとめと試験